

## 第25章 地域編①：バンコク首都圏

### 1. 地域概要

#### (1) 概要

##### ①バンコク首都圏のタイにおける経済的地位

バンコクはタイの首都であり、政治・経済の中心地である。その経済的地位は非常に高く、バンコク首都圏の2020年の名目GDPは7兆924億バーツで、タイ全体の47.6%を占める。1人あたりGDPは、自動車をはじめとする製造業が集積する東部に次ぐ高い水準である。バンコク市内には高級ブランドが入居する百貨店やショッピングモールも多く、消費の活発さを象徴している。

図表 25-1 バンコク首都圏の位置



バンコク首都圏		
46	ナコンパトム	Nakhon Pathom
47	ノンタブリー	Nonthaburi
48	パトゥムターニー	Pathum Thani
53	バンコク	Bangkok
54	サムットサーコン	Samut Sakhon
55	サムットプラカーン	Samut Prakan

図表 25-2 バンコク首都圏概要

No	県名	(英語名)	名目GDP [2020年] (100万バーツ)	人口 [2020年] (1,000人)	1人あたりGDP [2020年] (バーツ)
	バンコク首都圏	Bangkok & Vicinities	7,425,120	17,095	434,345
53	バンコク	Bangkok	5,270,460	8,999	585,689
55	サムットプラカーン	Samut Prakan	641,628	2,250	285,173
48	パトゥムターニー	Pathum Thani	428,278	1,786	239,753
54	サムットサーコン	Samut Sakhon	407,144	1,065	382,372
47	ノンタブリー	Nonthaburi	344,982	1,781	193,682
46	ナコンパトム	Nakhon Pathom	332,628	1,214	288,232

(出所) National Economic and Social Development Board より作成

## ②工業団地・日系企業進出動向

バンコク首都圏の主要な工業団地は 15 カ所ある。パトゥムターニー県のナワナコン工業団地は 1971 年、サムットプラカーン県のバンブー工業団地は 77 年、バンコクのラッカバン工業団地は 78 年の設立で歴史が長く、日本企業も多く進出している。

### (2) 進出日系企業からみた事業・生活環境やコスト

#### ①インフラ・物流

##### 【道路】

道路距離は 6 万 7,300 km、道路舗装率は 98.1%と、100%近い水準に達している (2010 年)。国内には 6 本のアジアハイウェイ路線が通っており、隣国のマレーシア、カンボジア、ミャンマー、ラオスへと陸路で繋がっている。また、バンコクと中国の昆明とバンコクを結ぶ南北経済回廊も開通している。

バンコク市内の移動はスカイトレイン (BTS) や地下鉄 (MRT) の開通で便利になっているが、慢性的な交通渋滞のために車での移動には依然として時間がかかり、目的地への到着時間が予測できないこともしばしばである。

バンコク中心部から離れると、交通渋滞は少なくなる。バンコク外環道路やモーターウェイ等、バンコク市内を避ける道路や東部地域へ向かう高速道路は比較的流れがスムーズである。ただし、朝夕は従業員や私立校に通う生徒の送迎、家路につく通勤者のラッシュが重なるため、時間に余裕を持って移動することが得策である。

##### 【港湾・空港】

チャオプラヤ川を 28 km 遡ったところにバンコク港 (クロントイ港) があり、1951 年の開港以来、バンコクの港として利用されてきた。

しかし、水路が狭く水深が浅いため、大型船は入港できない。

空港については、タイ最大の空港であるスワンナプーム国際空港がサムットプラカーン県にあり、バンコク市内から東方に約 30 km と便利な立地にある。同港は、バンコクから北に 20 km のドンムアン空港（現在は主に国内線やローコスト・キャリアが就航）のキャパシティが逼迫したことに対応し、2006 年に開港した。貨物ターミナルは総面積 19 万 m<sup>2</sup>、国際貨物ターミナル、国内貨物ターミナル、郵便センター、オペレーションセンターの 4 つの施設があり、貨物ターミナルはさらに 4 つ（特急貨物エリア、タイ航空専用エリア、その他航空会社エリア、ペリシャブル専用エリア）に分かれる。また、4 つの倉庫を有する免税ゾーンもある。年間 300 万トンに対応可能とされている。

### 【電力】

バンコク市内では、停電することはまずない。それ以外の地域でも電力供給は安定しているが、雨季には月数回程度の停電が発生する場合がある。工業団地には自家発電設備を有するところが多いが、瞬時に自家発電に切り替わるわけではないため、瞬間停電が生産や設備に影響を及ぼす場合は、無停電電源等の用意が必要となる場合もある。

### 【通信】

固定電話、携帯電話、インターネット環境とも水準は高い。特に携帯電話については、タイの 3 大キャリアと呼ばれる AIS、DTAC、TRUE はいずれも 4G、5G 通信を提供している。詳細については第 20 章「通信」を参照されたい。

### 【不動産】

不動産価格の高騰が続いているため、工業団地やオフィス賃料は上昇している。立地に優れ、設備の良い工業団地ではほとんど空きのないところもある。他方、個人向けではマンション（コンドミニアム）投資が活発であるが、タイ中央銀行は投機の過熱と不動産ローンの不良債権拡大抑制を図り、不動産価格に対するローンの比率に上限を設定した（2019 年 4 月）。だが、COVID-19 パンデミックの影響による購買力低下対策として、不動産評価額に占める借入金の割合（LTV）を、従来の 70～90%から 100%に引き上げた。なお、不動産取引では日本人をねらった詐欺（利回り保証を謳って投資させ、その後業者が倒産する等）も発生している。

**ひとくちメモ 17： タイの観光産業**

タイはGDPの約1~2割弱を観光産業が占め、2019年には約4,000万人の観光客が訪れていたという観光大国であるが、COVID-19により観光産業も打撃を受けている。2021年には観光客が約40万人程度まで落ち込んだ。2022年からは回復基調にあり、外国人旅行者数が1,115万人を記録し、ピークとなった2019年の約3割まで回復しているようである。だが、2022年11月の現地調査においては、かつては外国人観光客等で賑わっていた歓楽街、パッポン通りも閑散としているような状況であった。

なお、タイではメディカル・ツーリズムが盛んであり、2021年には医療ビザ(Medical Treatment Visa)の発行が承認されている。

同ビザの取得対象は、リハビリテーション、アンチエイジング、循環器系疾患、がん、美容整形等の医療サービスを受ける外国人富裕層となっている。中東の富裕層等に人気のようだ。このような富裕層向けの病院は高級ホテルのような設備、サービスを提供している。



2022年11月のパッポン通りの様子

観光・スポーツ省は、タイを訪れる外国人旅行者数を向こう5年間でピーク時の2倍となる年間8,000万人に拡大する方針を発表。カジノの合法化なども実現し、観光による収入も2019年の2.5倍の5兆バーツ(約19兆6,000億円)にまで引き上げることを目指すと報道されている。

**【水】**

バンコクにはチャオプラヤ川という豊かな水源があり、水不足になることはまずない。むしろ、土壌が粘土質で水はけが悪いこともあり、雨季に大量の雨が降った場合には、バンコク市内でも道路が水浸しになるのはよくあることである。2011年にはバンコクから北のアユタヤで大規模な洪水が発生し、工業団地が水没したため多くの日系企業が被災した。この地域の工業団地は洪水の経験を踏まえ、堤防の建設や排水処理の強化等の対策を講じている。

**②労働事情****【人材】**

バンコクとその周辺にはチュラロンコン大学をはじめ、タイの中でトップクラスの教育機関があり、人材の質は相対的に高いといえる。しかしながら、経理・人事・法務・IT等の専門人材の確保が難しくなっているようである。特に、法務・IT人材の確保が難しいとの声があった。

なお、2006年には泰日工業大学が設立され、19年には日本の高専機構が協力し、キングモンクット工科大学ラカバン校に付属校として KOSEN-KMITL（タイでの高専の第一号校）が設立される等、技術者を養成する教育機関も創設されており、エンジニアの育成を行っている。

**【賃金】**

バンコク周辺はタイ経済の中心ということもあり、賃金は他の地域に比べると高めである。タイは失業率が低く、若い層を中心にワーカーの採用が逼迫しているため、工業団地内でワーカーの取り合いになっている。ワーカーは給与が少しでも良い工場を求め頻繁に転職する傾向が強く（賃金の高い大手企業については例外あり）、工業団地内で労働争議に発展する場合もあるため、賃金上昇圧力は強い。マネージャーやエンジニアについても給与面の要求は高く、数年で転職していく人が多い。

図表 25-3 バンコク首都圏の県別最低賃金

県名	最低賃金（日額、パーツ）
バンコク、サムットプラカーン、サムットサーコン、ノンタブリー、ナコンパトム、パトゥムターニー	353 パーツ

（出所）JETRO 資料より作成

**③生活環境**

**【気候】**

日本の気象庁のデータによると、平年値では、バンコクの月平均気温で最も高いのは4月の30.8℃、最も低いのは12月の27.4℃である。若干ではあるが、気温は上昇傾向にある一方、降水量は雨季のピークを迎える9月と10月で最も多く、月間降水量が360～390mmに及ぶ（日本の梅雨は、平年200mm前後）。

**【教育】**

バンコクには、泰日協会学校（バンコク日本人学校）がある。同校は1926年創立の盤谷日本尋常小学校を前身とする、世界的にも長い歴史のある日本人学校である。小学部と中学部があり、2022年4月時点、小学部は77クラス1,619名、中学部は18クラス397名の計2,016名であり、世界で最も規模の大きい日本人学校となっている。

**【医療】**

バンコクの医療水準は高く、市内の私立総合病院には日本の大病院と比べても遜色のないレベルの医師、設備を備えた病院がある。日本の医学部への留学や病院での研修を受けたタイ人医師（日卒医と呼ばれる）が勤務する病院もある。

公立病院でも大きいところは、分野によって高度な医療が受けられる場合があるが、駐在員とその家族等、長期滞在している日本人の多くは、ほとんどの場合、私立病院を利用しているようである。

外務省の「海外安全ホームページ」上で各国の医療事情についての情報を公開している。タイのページ (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/thailand.html>) では、バンコク周辺の病院情報として、9 病院が紹介されている（その内 2 病院はスワンナプーム空港内の病院、2 病院はドンムアン空港内の病院）。バンコク市内の病院としては、バンコク病院やバムルンラード病院等、私立病院 5 病院が紹介されている。

### 【治安】

治安は悪くはない。しかし、バンコクでは政情不安によるデモがたびたび発生してきた。このため、デモが行われる場所（ルンピニ公園等、決まった場所で行われ、大抵は事前に知らされる）には近づかないほうが良い。夜間外出禁止令が発令されると、配達車が出せない、夜勤の従業員が移動できない等の影響があるものの、生産活動に大きな影響は及ぼさないようである。

#### ひとくちメモ 18 : タイで人気の K-POP

K-POP と言えば、BTS（防弾少年団）や、BLACKPINK 等、世界的に人気を誇るグループも存在しているが、タイでも絶大な人気を誇っている。「2PM」の NICHKHUN や、「BLACKPINK」の LISA 等、タイ人メンバーが活躍していることも理由の一つであるようだ。特に「BLACKPINK」の LISA はインスタグラムのフォロワーが 8 千万人を超え（2022 年 12 月時点）、セリーヌといった欧米ハイブランドのグローバル・アンバサダーを務める等グローバルに活躍しており、タイ人にとっても誇りとなる存在であるようだ。

このような K-POP 人気を反映してか、2022 年にはバンコクにある国立シラパコーン大学が、音楽学部に、エンターテインメントの専攻を新設している。この新しい専攻では、ダンスやコーラス、それに効果的な SNS の発信等も含め、幅広く学べる模様である。

現地調査においては、このような K-POP 等、韓国文化の影響で若い層には圧倒的に韓国が人気であり、飲食においても韓国焼肉が流行っているというような声もあった。

日本のエンターテインメント業界からは、例えば吉本興行がアジアでエンターテインメント事業を展開するための基盤構築として「アジア住みます芸人」というプロジェクトを展開しており、タイでも実施中である。日本のアニメは引き続き根強い人気を誇るが、その他のエンターテインメント分野についても活躍を期待したい。

### 【住居】

住居は、他の地域と比較すると割高であるが、多様なサービスアパートメントが用意されている。地域により異なるものの、セキュリティ等が完備された住居であれば、日本人が多いといわれるスクンビット地域の家族向け住居の場合、家賃の相場は、最低でも月額 50,000 バーツ（約 17 万円）程度となっている。

### 【日本食】

バンコクは ASEAN 諸国の中では日本食や日本食材を入手しやすい都市である。バンコク市内には、日本食を扱うスーパーマーケットの「フジスーパー」が 4 店舗ある。

2019年2月には「ドン・キホーテ」を展開するパシフィック・インターナショナルホールディングスが、生鮮（青果・鮮魚・精肉・惣菜）をはじめとした食品や日用消耗品を扱う「DON DON DONKI トンロー店」をオープンした。また、イオンは1992年にタイ進出、2001年にはタイ証券取引所に上場している。

中でも店舗面積が300m<sup>2</sup>以下の「マックスバリュータンジャイ」を、バンコクを中心に展開している。タイで展開しているイオン、タイ国際航空との提携クレジットカードや鉄道事業等を展開するBTSグループとの提携による電子マネー「ラビット」を搭載した一体型メンバーカードも発行している。



バンコク市内のDON DON DONKI トンロー店（左）と  
小売店のラビットカード決済端末（右）

また、外食では、バンコクに住むタイ人も日本食を好むため、「スシロー」「大戸屋」「丸亀製麺」「すき家」「一風堂」等、日系の外食チェーンの進出も多い。バンコク市内の大型ショッピングモールのフードコートには、ほとんどの場合日本食を提供する店が入居している。お弁当の宅配も充実している。

**ひとくちメモ 19： タイでも人気のサッカー**

タイは、サッカーへの関心度が高い国といわれる。日本のJリーグも2012年のタイ・プレミアリーグとのパートナーシップ協定を結んでおり、現在、一部リーグでは川崎フロンターレに所属するチャナティップ・ソングラシン選手等のタイ人選手が活躍している。Jリーグは2017年より「Jリーグ アジア・チャレンジ in タイ」を開催しており、日本のチームとタイのチームの対戦等を行っている。

ジェトロのレポートによれば、Jリーグはバンコク高架鉄へのラッピング広告等の広報のほか、日本のサッカーに関心を持つタイ人が集まる場を活用し、様々なビジネス活動に広がりを広げようとしている。例えば、パブリック・ビューイング会場で、赤城乳業が氷菓「ガリガリ君」、和幸がカツサンドを来場者に提供。日系企業による商品プロモーションに踏み込んだ例があるということである。

## 【金融】

バンコクには、日本のメガバンク 3 行（三菱 UFJ 銀行<sup>27</sup>、三井住友銀行、みずほ銀行）や三井住友信託銀行の支店があり、主に日本企業や現地の大手企業、国際的に事業を展開する欧米企業のタイ子会社向けに、融資や為替等の法人業務を行っている。また、地方銀行や信用金庫がバンコクに駐在員事務所を設立するケースも多い。駐在員事務所の場合は情報提供サービスが中心だが、タイに進出している各行の取引先に日系企業間の情報交換の場を提供することでビジネスにつなげることを目的とした交流会も行っている。

他方、個人向け業務では、三菱 UFJ 銀行の場合、2013 年に買収したアユタヤ銀行（クルンシィ）で口座開設ができ、日本語サービスも提供されている。また、三井住友銀行は 2016 年にバンコク銀行と業務提携し、三井住友銀行のバンコック支店に口座を持つ顧客であれば、バンコク銀行の支店から三井住友銀行の（バンコック支店）口座に預金することが可能となっている。地場銀行では、カシコン銀行に日本語サポートデスクが設置されている。

## 2. 主要工業団地

No.	工業団地名	所在地	総開発面積
1	Bang Chan Industrial Estate	60 Moo14 SoiSeri Thai 87, Minburi, Bangkok 10510	108 ha
2	Gemopolis Industrial Estate	38 Sukhapiban 2 Soi 31, Dok Mai, Prawet, Bangkok 10250	24 ha
3	Gemopolis Industrial Estate Project	47/31 Moo 4, Sukhapiban 2, Dok Mai, Prawet, Bangkok 10260	53 ha
4	Lat Krabang Industrial Estate	40 Soi Chalongkrung 31, Lumphathiew, Lat Krabang, Bangkok 10520	409 ha
5	Bangkadi Industrial Park	159 Moo 5 Tivanon Rd., Bangkadi, Muang, Pathumthanee 12000	188 ha
6	Nava Nakorn Industrial Zone	999 Moo 13 Phaholyothin Rd., Klong1, Klong Luang, Pathum Thani 12120	1,038 ha
7	Asia Industrial Estate	Luang Pang Rd., Km.13-14, Klong Suan, Bang Phli Noi, Samut Prakarn 73001	644 ha

<sup>27</sup> 三菱 UFJ 銀行は、2013 年にアユタヤ銀行を買収し、2015 年に三菱東京 UFJ 銀行バンコック支店（当時）との統合を完了している。



No.	工業団地名	所在地	総開発面積
8	Bangplee Industrial Estate	136/2 Moo 17 Thepharuk Rd., Bangsaothong, Samut Prakarn 10540	146 ha
9	Bangpoo Industrial Estate	649 Moo 4 Sukhumvit Rd.Km.37, Bangpoomai-Praksa, Muang, Samut Prakarn10280	875 ha
10	Bangpoo Industrial Estate (North)	511 Moo 2 TamruBang Phli Rd, Phraeksa, Mueang Samut Prakan District, Samut Prakan 10280	122 ha
11	Bangkok Free Trade Zone	71 Moo 15 Bangna-Trad Rd, Km. 23, Bangsaothong, Samut Prakarn 10540	160 ha
12	Bhakasa Industrial Estate	Bhakasa Industrial : Praksa Road, Praksa, Mueang Samut Prakan, Samut Prakan 10280	104 ha
13	Maharaj Nakorn Industrial Estate	99/1 Moo 8 Rama II Rd., Bangkajao, Muang, Samut Sakhon 74000	16 ha
14	Samut Sakhon Industrial Estate	39/5 Moo 2 ThonburiPaktor Highway, Km 32.5 Bangkrajao, Muang, Samut Sakhon 74000	297 ha
15	Sinsakhon Industrial Estate	30/1 Moo 2 Chetsadawithi Rd., Khok Kham, Mueang, Samut Sakhon 74000	95 ha

(出所) BOI より作成

**ひとくちメモ 20： 「ロイクラトン」祭り**

「ロイクラトン」とは、灯籠（クラトン）を川に流す（ロイ）というタイの人々の間で古くから続いていた風習だ。旧暦 12 月（現在の 10 月または 11 月）の満月の夜に人々が川岸に集まり、川の女神「プラ・マー・コンカー」へ感謝の気持ちを捧げる。13 世紀のスコータイ王朝の王妃がバナナの葉でハスの花をかたどった灯籠をつくり、満月を映した川に流したことがそのはじまりとされている。ロイクラトンの当日は、街全体がロイクラトン祭り一色になる。バンコク市内では公園の池や、市内をめぐる水路等で灯籠を流す光景を目にすることができる。川の周辺には灯籠を売る屋台が並び、お祭りムードを盛り上げている。

調査チームがタイに訪れた 2022 年 11 月、夕食の帰りに BTS プロンポン駅近くのベンチャシリ公園をたまたま通りかかった際、タイミングよくこの行事に参加することが出来た。屋台では色とりどりの灯籠が売られており、我々調査チームも折角の機会だからと記念に購入し、公園の池に流した。灯籠が一面に川面に浮かぶ光景は、とても幻想的だった。この時期のタイに訪れる機会があれば、是非この伝統的な行事に参加してもらいたい。タイの普段とは違った一面が見られるはずだ。



ベンチャシリ公園のロイクライトンの様子